

野迫川村における森林環境譲与税の活用について

■活用状況（全体像）

区分	令和元年度～ 令和6年度	令和7年度	計	令和7年度末 時点の活用率	未執行額の活用方針
活用額（円）	168,789,603	62,125,000	230,914,603	82%	未執行額は、令和7年度に導入した薪ボイラー及び 薪生産施設における資源循環体制（小規模熱利用 による地域内エコシステム）構築等に充てる。こ れら一連の施策により、譲与税の受入と活用の均 衡を図りつつ、持続可能な森林経営を確立する方 針である。
譲与額（円）	218,221,000	62,125,000	280,346,000		

■令和7年度の具体的な活用状況

区分	事業区分	事業費（円）	うち 森林環境譲与税	主な事業内容
森林整備	・ 施業放置林整備事業 ・ 地域林政アドバイザー履行業務等	13,695,000	13,695,000	村と協定を締結した施業放置林等（20ha）に対し、本数率で30%以上の 間伐を実施。対象森林については森林経営管理法に基づく意向調査を踏 まえて抽出している。
人材育成	・ 林業従事者物品等購入補助金 ・ 林業振興WebPR媒体作成等	11,829,113	11,829,113	村における林業の取組や支援制度、林業家の人となり、森林の特長等に ついて、WEBページ上で広く発信することで、村の林業や森林の魅力 を実感してもらい、Iターン等による新たな林業就業者確保につなげる。
木材利用	・ 地域内エコシステム（木質バイオマス 小規模熱利用）構築事業 ・ 地域内エコシステム出口強化事業等	114,557,812 （うち国補助金 37,337,000 奈良県委託費 24,196,700）	53,024,112 （うち基金繰入額 16,423,225）	地域内エコシステム構築に向け、薪ボイラー（村内ホデル）及び薪生産 供給施設開設（村有遊休地）の整備費、村有林における材の搬出費に充 てた。今後の事業展開により、年176トンの原木消費、重油使用量削減 （年約60kl）、温室効果ガスの排出量抑制（年間160tCO2）を目指す。
基金積立		0	0	野迫川村森林環境保全基金
合計		140,081,925	78,548,225	

■今後の実施計画

○地域内エコシステムの出口強化事業
（奈良県混交林誘導整備事業との連携）

本事業は、村内薪ボイラーへの燃料用材供給に
係る搬出を支援し、地域内での資源循環体制を構
築することを目的とする。具体的には、奈良県混
交林誘導整備事業のスキームを活用し、村有林
（5ha）において小面積帯状伐を実施すること
で、広葉樹を含む混交林・複層林への誘導を図る。
また、搬出については村の自主事業として実施し、
両事業の連携による相乗効果を創出する（年間約
1,000万円）。右写真は施業地の様子。



○林業従事者研修及び資格取得等促進支援事業費補助金

村内の林業従事者らが高度な技術や資格を取得するための講習の受講等に要
する費用について補助金を交付する。通常の技能講習、特別教育、安全教育の
ほか、民間事業体（アーボリスト®トレーニング研究所＝ATTI）が行うアーボ
リスト養成講座等も対象にしている。全額補助。上限300千円／人



（講習参加者による高所伐採）

（村内で開催した刈払機取扱作業安全衛生教育）